

順調です 大谷夏いちご

生産企業が市長訪問

宇都宮

【宇都宮】大谷地区で夏から秋にかけて収穫する「大谷夏いちご」を生産する企業3社が2日、市役所を訪れ佐藤栄一市長に今シーズンの抱負を語った。

訪れたのは、ファーマーズ・フォレストの松本謙社長(51)、シーディービージャパンの田村篤史社長(40)、小平興業の石黒靖規社長(56)。

イチゴは暑さに弱いが、



今シーズンの大谷夏いちごの生育状況について佐藤市長(中央)に語る生産企業の社長ら

大谷夏いちごは夏秋用の品種「なつおとめ」の株元を大谷石採取場跡地の貯留水で冷やすシステムを使って栽培しているのが特徴。本年度は6月上旬から出荷が始まり、今シーズン新規参入した石黒社長は「努

力を重ねおいしいイチゴを作りたい」と意気込みを語った。試食した佐藤市長は「酸味があり果肉もしつかりしている。完璧ですね」と太鼓判を押した。

市都市魅力創造課大谷振興室によると、大谷夏いちごの生産は2015年度に開始。18年度は栽培面積57畝、収量14・2トになる見

みで、それぞれ15年度の10倍になるという。市内洋菓子店や沖縄のリゾートホテルで使われる。

(藤田りか)